

三重県教育施策大綱（令和2年度～令和5年度）に基づく令和2年度の取組の主な成果と課題

県では、総合教育会議における協議を経て策定した「三重県教育施策大綱（期間：令和2年度～令和5年度）」に基づき、家庭教育や幼児教育、学校教育等の取組を進めています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により、学校教育はもとより家庭教育などの様々な取組において大きな影響を受けました。

学校教育では、年度当初から多くの学校において臨時休業を余儀なくされ、オンライン学習の導入による学びの保障に取り組みました。また、全国学力・学習状況調査や全国体力・運動能力調査が中止となる中、学習内容の定着状況を把握する「みえスタディ・チェック」や学習習慣等を把握する県独自の質問紙調査、体力調査等を行いました。さらに、新型コロナウイルス感染症に係る偏見やいじめ、差別をなくすための学習が行われるよう、全ての学校に学習資料を提供しました。

家庭教育や幼児教育などの取組においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、様々な事業が中止や延期となりましたが、一部の取組をオンラインで代替するなど、当初の目的を達成できるよう取組を進めました。

こうした中、県が毎年実施している「みえ県民意識調査」において、令和3年1月に実施した第10回調査では、「子どものためになる教育が行われていると感じる県民の割合」について、「実感している層」の割合が41.9%、「実感していない層」の割合が38.1%となり、前回調査と比較すると、それぞれ4.9ポイントの増加、1.6ポイントの減少となっています。

現時点では、新型コロナウイルス感染症の収束が見込めないことから、今後も引き続き、子どもたちの学びの環境の充実や支援の方法について創意工夫を凝らし、取組を進めていく必要があります。

教育施策	主な成果	残された課題	今後の取組方向
1 「教育の原点」である家庭教育と子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭教育応援Web講座」の開設 ・里親登録者数の増加 ・児童家庭支援センター及び一時保護専用施設の整備 ・子ども家庭総合支援拠点の設置 ・母子保健コーディネーターの養成 ・1歳6か月児健診マニュアルの作成 ・妊娠SOSみえ「妊娠レスキューダイヤル」のSNS相談窓口開設 ・「新型コロナ克服みえ支え“愛”募金」を活用し、子どもの居場所づくりを行う団体に対する「食を通じた子育て支え愛事業補助金」「子どもの居場所づくり推進事業補助金」を創設 ・「就学前の子ども向け生活習慣チェックシート」活用施設の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育応援のため、様々な主体と連携した、家庭や地域の実態に応じた取組の推進 ・「みえ次世代育成応援ネットワーク」と連携し、県民が主体的に子育て応援活動にかかわる機会の創出 ・里親委託推進、施設の小規模化・地域分散化等 ・令和4年度までに全市町への子ども家庭総合支援拠点の設置 ・運営基盤が脆弱な子どもの居場所づくりを行う団体の活動が継続できるような体制や運営力強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育の原点」である家庭が役割を十分に果たせるよう、妊娠・出産・子育て家庭への支援を充実するとともに、子どもの豊かな育ちを支える地域社会づくりを推進 ・就園・就学中の子どもを持つ家庭に対し、学校等と連携し、家庭・学校・地域が教育効果を高め合うよう取組を推進 ・子どもの居場所づくり等の活動を行う団体と役立ちたいと考える企業や市町・地域が繋がる仕組みの構築を推進
2 人間形成の基礎を担う幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等の施設整備や財政支援による待機児童数の減少 ・7か国語に対応した就学パンフレットの作成 ・三重県幼児教育センターの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士確保と待機児童の解消 ・野外体験保育の普及のための関係機関との連携 ・三重県幼児教育センターの「幼児教育アドバイザー等派遣」による子ども達の感性・意欲等の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間形成の基礎を培えるよう、遊びや多様な体験活動等をおして、健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会と関わる意識、思考力の芽生え、生命を尊重する気持ち、数量・文字等への関心、言葉で伝え合う力、豊かな感性などの育成

教育施策	主な成果	残された課題	今後の取組方向
<p>3 子どもの未来の礎となる「確かな学力・豊かな心・健やかな身体」の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解と定着の確認、指導用資料の提供、少人数指導の実践研究の進展 ・道徳教育アドバイザーの派遣による指導・助言 ・「第四次三重県子ども読書活動推進計画」に基づく「各市町関係者の交流会」、「絵本作家による講演会」、「発達段階に応じた読書活動推進講座」を通じた子ども達の読書習慣の定着 ・ビブリオバトルのデモンストレーション実施と本の紹介動画の配信による子どもたちの読書活動の推進 ・オンライン日本語教育の実施による支援 ・オリンピック・パラリンピアンによる講演及び競技体験会の実施 ・部活動指導員・運動部活動サポーターの活用 ・三重県高等学校総合体育大会等の中止を受けた代替大会や 2020 年岐阜県・三重県高等学校野球交流試合の実施 ・部活動のあり方検討委員会の設置による学校における持続可能な部活動のあり方の検討 ・新型コロナウイルス感染症に係る偏見やいじめ、差別をなくすための学習資料の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア・少年選手の発掘・育成・強化 ・地域と学校が連携したキャリア教育の推進 ・道徳教育アドバイザーによる指導・助言や道徳教育の取組事例等の広域的な発信 ・一人ひとりの理解・定着状況に応じた繰り返し学習や、学年を遡って学べる環境の提供 ・オンライン日本語教育の周知 ・理解の深まりや学習意欲の高まりなどに向けた ICT 機器の効果的な授業活用 ・子どもの体力向上をめざした授業改善 ・休日の部活動の段階的な地域移行に向けての連携・協力体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分のよさを認識し、失敗を恐れず夢と志を持って可能性に挑戦していくため、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の「確かな学力」、命を大切にする心や他者への思いやりなどの「豊かな心」、心身の健康や体力などの「健やかな身体」を育成

教育施策	主な成果	残された課題	今後の取組方向
<p>4 個性を生かし他者と協働して未来を創造する力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県の魅力等を英語で発信する「郷土三重を英語で発信！～ワン・ペーパー・コンテスト～」の実施による能力の向上 ・すべての県立学校においてICTを活用した授業が実施できるよう整備 ・中学生の課題解決型学習(PBL)の手法による地域での学習活動や地域の魅力を発表する実践発表会を実施 ・アドバイザーの派遣による1人1台端末を活用した学習の計画的な実施 ・就職アドバイザーや外国人生徒支援専門員の増員 ・1人1台端末活用の実践事例集や学校間での教材等共有に関する手引き等の提供 ・小規模高校において、地域住民や職業人と関わる実社会での実践活動や地域課題の解決策についての探究活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年消費生活講座等の利用促進、開催方法の見直し ・生徒が自分の住む地域だけでなく県内の他地域の良さも知り、三重県に誇りと愛着を感じ、地域に貢献する意欲を持つことができるための一層の普及 ・ICTを効果的に活用した授業実践の紹介、教員のニーズを踏まえた研修機会の提供 ・小中学校で整備された1人1台端末の効果的な活用にむけた支援 ・地域と高校が一体になった地域課題解決型キャリア教育の取組推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・予測困難な社会にあっても、変化を前向きに受け止め、社会の一員としての自覚と責任を持ち、自らの感性や創造性を発揮して、他社との絆を大切にしながら、豊かな未来を創っていく力を育成 ・青少年消費生活講座や教育機関等と連携した消費者教育の実施およびSNSの活用など若年者の知識と意識を高めるための取組を推進

教育施策	主な成果	残された課題	今後の取組方向
5 特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「CLMと個別の指導計画」を導入している幼稚園、保育園等の割合の増加 ・みえ発達障がい支援システムアドバイザーの養成 ・市町教育委員会と連携した小中学校でのパーソナルファイルの活用、中学校から高等学校への支援情報の引継ぎの推進、高等学校における発達障がい支援員による巡回相談の実施 ・特別支援学校への学習用端末や校内無線LAN環境、入出力支援装置（視線入力装置や点字ディスプレイ、音声読み上げソフトなど）の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町における専門人材の育成支援の充実 ・パーソナルファイルのさらなる活用の推進、支援情報の確実な引継ぎの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子どもたち一人ひとりの教育ニーズに応じた学びの場において、継続的な指導・支援を行い、自立と社会参画のための必要な力を育成 ・障がいのある子どもたちと障がいのない子どもたちが授業で共に学ぶことや行事等の交流などをお互いに理解を深め、尊重する態度を育成

教育施策	主な成果	残された課題	今後の取組方向
6 安全で安心な学びの場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭の子どもの学習支援を実施する市町への補助や生活困窮家庭の子どもの学習支援を実施 ・いじめ防止応援サポーターの登録による地域でのいじめ防止の促進と機運の高まり ・いじめ反対を示すピンクシャツ運動によるいじめ防止の普及啓発 ・児童生徒に関わるインターネット上の不適切な書き込みを検索するネットパトロールの実施、警察等の関係機関との連携の進展 ・SNSなどでの閉ざされたやりとりにおいて、不適切な書き込みを発見した場合に、その内容を投稿できるアプリ「ネットみえ〜る」の運用 ・スクールカウンセラーの配置時間数増と県立学校への教育相談員の配置 ・不登校児童生徒一人ひとりの状況に応じた訪問型支援の推進 ・防災ノート配布、防災研修・訓練の実施による防災意識の向上 ・被災した学校の早期再開を支援する「災害時学校支援チーム」の設置 ・「いじめ電話相談」やSNSを活用した「子どもSNS相談みえ」、多言語で相談できる「Kodomo SNS Soudan Mie」の実施 ・「夜間中学等の就学機会確保の在り方に関する検討委員会」の設置による今後の方向性のとりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期化するコロナ禍における、ひとり親家庭や生活困窮家庭の子どもの学習支援等 ・長引くコロナ禍の中、市町によるひとり親家庭や生活困窮家庭の子どもの学習支援等 ・社会総がかりでいじめ防止を進めるためのサポーターの取組の活性化 ・教育支援センターを核とした不登校児童生徒一人ひとりの状況に応じた訪問型支援の一層の推進 ・防災学習教材の活用、教職員の防災知識の向上 ・不登校やいじめ、特別な支援が必要な子どもたちへの対応について学ぶ研修の実施 ・緊急な支援が必要な児童生徒に対する心のケア及び関係機関と連携した支援 ・学び（直し）に関する県民のニーズの掘り起こしや就学機会の確保の具体的な課題等の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや暴力を許さない心や、危険予測・危険回避能力を育むとともに、いじめや暴力行為の防止に向けた取組やその解決に向けた組織的な対応、防災対策・防災教育、通学路等の安全対策、不登校児童生徒や教育的に不利な環境にある子どもたちへの支援 ・ひとり親家庭や生活困窮家庭の子どもへの学習支援等が、身近な地域で地域の実情に応じた手法で利用できるように支援

教育施策	主な成果	残された課題	今後の取組方向
7 地域との協働と信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの導入校の増加による地域と連携した学校運営の取組の進展 ・新学習指導要領の趣旨・内容をふまえた授業改善に係る研修やICTを効果的に活用した学びに係る研修の実施 ・集合研修や双方向型研修、動画配信によるオンデマンド型研修の実施 ・家庭・学校・地域が連携して子どもを育てる取組の一層の充実を図るための、「次世代の家庭・学校・地域創生フォーラム」の実施 ・「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」設置による、次期「県立高等学校活性化計画」策定に向けた議論 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール等の導入拡充 ・学校・家庭・地域のさらなる連携促進 ・コンプライアンスをはじめとする素養や、授業力、教育課題への対応力等の専門性を高めることのできる研修の継続実施 ・三重県教育改革推進会議における、次期「県立高等学校活性化計画」策定に向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者・地域の方々が、目標やビジョンを共有し、一体となった教育活動を推進 ・学校の特色化・魅力化および、教職員の指導力向上、コンプライアンス意識の確立等に取り組むことで県民から信頼される学校づくりを推進
8 地域の未来と若者の活躍に向けた高等教育機関の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「高等教育コンソーシアムみえ」における、地域課題に対して深く関心を持ち、主体的に活躍する人材「三重創生ファンタジスタ」の養成 ・奨学金返還助成制度において、県内産業への就業等を条件とする枠組みの創設や募集人数の倍増等の制度の充実に伴う支援対象者の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の県内定着促進のための県内高等教育機関の魅力向上 ・関係団体の連携による、インターンシップの強化、効果的な県内企業の魅力発信、産業界のニーズに応じた職業訓練の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・県で学び、働き、住み活躍する若者を増加させるため、県内高等教育機関の一層の魅力向上と学びの選択肢の拡大 ・高等教育機関と地域との連携による、若者に選ばれるしごとの創出や働く場の魅力向上

教育施策	主な成果	残された課題	今後の取組方向
<p>9 地域の未来を創る多様な人材の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「チームみえ・コーチアカデミー」や「みえ農業版MBA養成塾」等各分野における人材育成の進展 ・「保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）としての資質の向上に関する指標モデル」の作成 ・「三重県医師確保計画」に基づく、地域医療支援センターの体制の強化・充実、および若手医師のキャリア形成の支援 ・医学生を対象にした、へき地医療の魅力を伝えるオンライン交流会の開催による次世代を担う医療人材の育成 ・看護職員確保対策検討会における議論をふまえた特定行為研修の受講促進による看護職員の資質を向上 ・介護未経験者を対象とした研修や外国人材を対象とした集合研修の開催による介護人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・Society5.0等新たな社会の動きに対応した産業人材や医療・福祉・介護等の専門的人材の育成 ・「保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）としての資質の向上に関する指標モデル」の周知・活用促進 ・医師数の不足や地域偏在等を解消のための医師の確保 ・訪問看護等在宅医療を担う看護職員の育成や特定行為研修の受講促進、感染管理を担う看護師の養成や資質向上 ・介護人材の確保に向けた新規参入や定着促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変容がもたらす課題に対応し、地域の活力の源泉となる人材の育成確保

教育施策	主な成果	残された課題	今後の取組方向
<p>10 あらゆる世代の誰もがいつでも学び挑戦し、活躍できる社会づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育を推進するための学校と地域を結ぶコーディネーターの養成 ・「三重県日本語教育推進計画」の策定 ・「夜間中学等の就学機会確保の在り方に関する検討委員会」の設置による今後の方向性のとりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人生100年時代」の到来を見据え、子どもも大人も学びあう教育の場づくりや多様化、高度化する県民の生涯学習ニーズへの対応 ・県民の多様な学習ニーズに応えるためのさまざまな学習機会の提供や学習情報の発信 ・新型コロナウイルス感染症の影響による障害者就労施設等の生産活動の縮小に対応するための受注拡大等に向けた支援 ・学び（直し）に関する県民のニーズの掘り起こしや就学機会の確保の具体的な課題等の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる世代の誰もが生涯を通じて、いつでも、どこでも、くり返し学ぶことができ、学んだことを生かして活躍できるよう、学習基盤の充実を図り、その成果を社会に生かすことができる環境づくりを推進 ・県立生涯学習施設において、県内高等教育機関や博物館等と連携したセミナー、子どもたちが本物の文化を体験できるアウトリーチ事業等を実施し、県民の皆さんに多様な文化と学びの場を提供